

クマを指定管理鳥獣にして捕殺を強化するのではなく 被害防止対策・棲み分け対策に予算を使ってください

日本熊森協会 作成

クマは絶滅しやすい 生きもの



北海道や青森県の一部、神奈川県でも絶滅危惧個体群に指定されています

現在、クマを指定管理鳥獣にする動きがさまざま勢いで進んでいます。指定管理鳥獣になるとクマの大量捕殺が助長されます。

去年は多くのクマがエサを求めて山から出てきて、人身事故が多発しました。しかし、クマを殺せばいい問題なのでしょうか？今こそ、日本の野生動物対応転換の時です。

エサが豊富な森を再生して、クマが山に帰れるようにすべきです

秋田県のツキノワグマの推定生息数は約 4400 頭！ 2023 年、秋田県は生息数の 48%にあたる 2137 頭を捕殺（11 月末現在）しています。現行法でもこれだけ殺せるのに、これ以上殺しやすくする必要はありません。

今まで・・・

農作物被害・人身事故を起こす可能性のあるクマを捕殺するのが原則

捕殺可能エリア

クマを指定管理鳥獣にすると・・・

従来の計画に加えて、山の中にもクマでも捕殺できる計画をつくれる

捕殺可能エリア

人身事故を防ぐには「豊かな森の復元」と「クマを寄せ付けない集落づくり」

●人身事故が起こりやすい状況をなくす



環境省は平成 26 年にシカ・イノシシを指定管理鳥獣に指定して、捕殺強化をはかりましたが、殺すだけでは農作物被害は無くなっていません。被害防止対策の方が効果があります。

クマってどんな動物？

日本には本州・四国にツキノワグマ。北海道にヒグマが生息しています。どちらも植物食に偏った雑食性で、年間に200種類以上の植物を食べます。特に秋は冬ごもりのために、どんぐりなどのカロリーの高い果実を必要とします。

犬の7倍もの嗅覚を持ち、数km先のはちみつや米ぬか、酒、クレオソート（塗料）などの匂いに誘因される反面、視力はあまりよくありません。

ツキノワグマは温厚ですが臆病な性格でもあります。自身より大きな人間に至近距離で突然出会うと驚き、叩いたり噛んだりして逃げる習性を持ちます。人間より大きなヒグマは人間に出会っても驚くことは少なく、ツキノワグマのような人身事故はほとんど起きませんが、一度起きれば重傷又は死亡事故につながります。

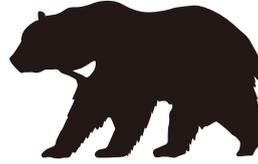
170 cm



ツキノワグマ

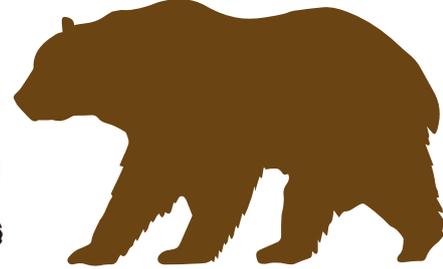
体長：110

～ 150 cm

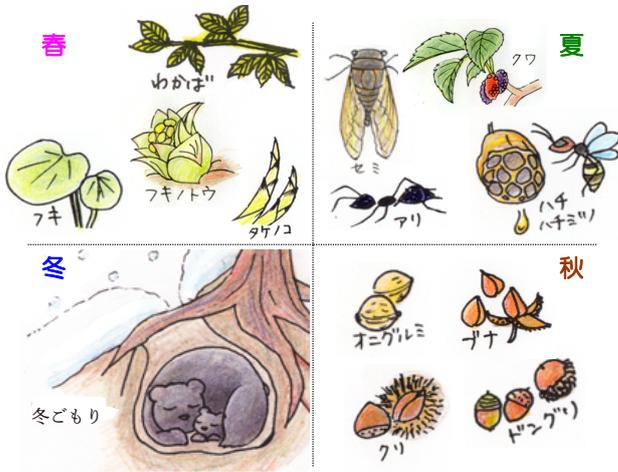


ヒグマ

体長：220 ～ 230 cm



■クマの食べ物



■荒廃した日本の森



日本は世界に誇る森林大国です。国土の3分の2を森林が占めています。しかし、その内の4割以上が戦後の拡大造林政策によってスギ・ヒノキの人工林になりました。当初は手入れがされていた人工林も、外国材の輸入などによって国産材の需要が下がり、放置され、荒廃しています。放置人工林内には野生動物のエサになるものではなく、野生動物たちがエサを求めて人里へ下り、深刻な農作物被害を発生させています。

最近、山間部での大規模再生可能エネルギー開発や、ドングリの木が枯れる「ナラ枯れ」の大発生などによって野生動物のエサはますます失われていっています。

クマによる恩恵

クマたちが造る水源の森

滋養豊かな大量の水を湧き出す森は野生動物たちにしか造れません。クマたちの造る森は最高の保水力を誇り、全産業・都市生活を支えています。



クマは森に光を入れる

クマが木に登り、枝を折って木の実を食べることで、森に光と風が入ります。そこは新たな木が生える場所になります。若い木はCO₂吸収量に優れます。

クマはハチミツもハチも食べる

ハチによる年間の死者数は例年20人程度に対して、クマによる死者数は例年数件です。クマはスズメバチの巣をあばいて食べるなど、ハチの数をコントロールしています。



クマは種を運び森を豊かにする

長距離を移動するクマによって種が遠くに運ばれることで、植物は遺伝的な多様性を保ちます。また、大量のフンは森の栄養源です。